

情報学部総合情報学科

学士課程教育プログラム

1. 学科の目的

情報学部総合情報学科は、情報化社会に対応しつつ、ビジネスの中核を担う企画力と実行力を有し、社会と積極的に関わり社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

2. 教育の目的と学位授与の方針

本学の教育は大きく分けると「教養力」と「専門力」の育成に分類され、それぞれ次のような教育の目的と学位授与の方針となっています。

2. 1 教育の目的

教養力の育成とは、本学在学中はもとより、社会人として活動するために必要な基礎力の鍛錬と人格を含めた自己形成がその主な内容となります。命の大切さを知り、われわれを取り巻く社会や自然、さまざまな文化活動について、幅広い学問領域の学識の一端に触れることで課題を発見し、主体的に考え、必要に応じて自ら行動できる人間力の豊かな人物を養成します。仲間とコミュニケーションをはかり、協働し合い、自分で自分を磨き上げる苦労と喜びへと促します。

本学科が目標とする専門力の育成とは、社会に通用する生きる力、問題解決能力、コミュニケーション能力、情報処理能力の育成です。近年における企業を取り巻く環境は、大きく変化し、今後更に変化すると思われます。

こうした変化の中、企業が求める人材やその能力にも大きな変化が見られるようになりました。 そうした人材を育成するために、新たな時代のビジネスパーソン(企業人)になるための基礎的知識を学ぶと共に、企業経営、スポーツ関連の専門科目について企業経営に資する人材になるため経営情報・スポーツ情報に関する分析力、考察力、問題解決力を学びます。

なお、本学科はビジネス全般を学ぶ経営情報コースとスポーツ関連のマネジメントを学ぶスポーツ情報コースを設定しています。

2. 2 学位授与の方針

総合情報学科では、以下の力を備えた者に学位を授与します。

(教養力)

1. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。
2. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。
3. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。
4. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。
5. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。
6. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。
7. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。

(専門力)

8. 知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる。
9. 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションできる。
10. データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に応用できる。
11. 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている。
12. 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができ、かつ問題解決のために応用できる。
13. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている。

3. 標準教育プログラム

総合情報学科において学習する皆さんに、上の教育の目的と学位授与の方針に到達するためには、以下の(1)～(8)に述べる内容の「教養力」と「専門力」を4年間で身につけることが必要です(以下、標準教育プログラムと呼びます)。

(教養力)

(1)社会人として活動するために必要な汎用的な能力を身に付ける

汎用的とは基礎的かつあらゆる活動への応用が効くベースとなるものを意味します。本学のカリキュラム体系は三つの群、すなわち人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群に大別されます。その人間科学科目群Aグループにおいては、初年次教育、外国語の中でも英語の基礎的リテラシー、体育実技を通じて、主体的な学びの姿勢、コミュニケーション力と国際性、健康管理と生涯スポーツの意識を高めます。また英語の上級者や意欲あふれる学生は、資格取得等につながるハイレベルクラスでさらに磨きをかけてもらいます。

(2)社会人として必要な文化、社会、自然の一般的知識と思考する力を身に付ける

人間科学科目群Bグループにおいては、講義系科目と演習系科目を連動的に開設しています。講義系科目には人文、社会、自然科学分野とこれらの複合領域に属する基本的な科目が用意されています。諸科学の基礎を学ぶことで、人間とこころ、歴史文化、国際情勢や社会の仕組み、科学的なものの見方、地球環境等に関して幅広い知見を身に付けてもらいます。ひいてはこうした経験が、多面的なものの見方や他者理解とともに、節度と意欲を兼ね備えた主体的な自己の確立に大きく寄与することになるでしょう。

また少人数で実施する演習系科目では、履修者が自ら課題を設定し、その問題解決に向けて授業担当者の指導のもと行動を起してもらいます。深く探究し、語り合い、これが思考力の訓練となることはもちろんですが、この実践的体験から新たな興味がまた芽生え、以前は関心の薄かった講義系科目、演習系科目履修への新たな誘因となることが望ましいです。

(専門力)

(3)知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる

企業社会の中で起きる問題を解決するためには、企業に関する組織や財務、法律、戦略、歴史などを積極的に学ぼうとする姿勢が不可欠です。加えて、こうした知識を習得すると共に、これらの知識(情報)を収集したり、処理したりするための行動力も必要となります。

(4)情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションできる

現代社会は、組織社会ともいわれるよう、他者との協業によって多くの活動を成し遂げていく社会でもあります。このような社会においては、行動に際して倫理的な判断とコミュニケーション能力が求められます。

(5)データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に応用できる

企業においては、データを管理、加工、処理、分析をするためのスキルが求められています。分析結果を価値創造に生かすためには、データの背景を十分に知る必要があります。カリキュラムにおいては、経済、経営等の経営学関連科目だけではなく、情報、統計、データサイエンス関連科目が開講されます。また、ビジネス分野の第一線で活躍をしている方々の話を多く聞くことができる授業もあり、幅広いスキルを身につけることができます。

(6)経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている

社会において有為な人材となるためには、基礎的な知識と応用的な知識の両方を身につける必要があります。本学科では経営またはスポーツの理論・概念を幅広く学びます。

**(7) 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができ、かつ問題解決のため
に応用できる**

社会生活において、情報の管理は不可欠です。ビジネス文書やスプレッドシートの作成や管理だけで無く、データベースや情報ネットワークに関する基礎知識とスキルの習得も必要です。これらの知識とスキルを活用した問題解決能力を発揮できるための素養も習得します。

**(8) 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する
力が備わっている**

現代社会において創造性ある人材は最も貴重な人材として評価されます。与えられた知識を吸収するだけではなく、これを応用して新たな知見を創造するためのスキルを身につけます。

4. 標準教育プログラムから見た教育課程の位置づけ

図1は、上記で説明した標準教育プログラムを実行するために必要な教育課程の構成概念をまとめたものです。また、4年間の具体的な授業科目の単位数等については、開講科目一覧を参照して下さい。授業科目は、人間科学科目群、専門基礎科目群、専門科目群の3つの群から構成されています。以下では、各群の教育内容について説明します。

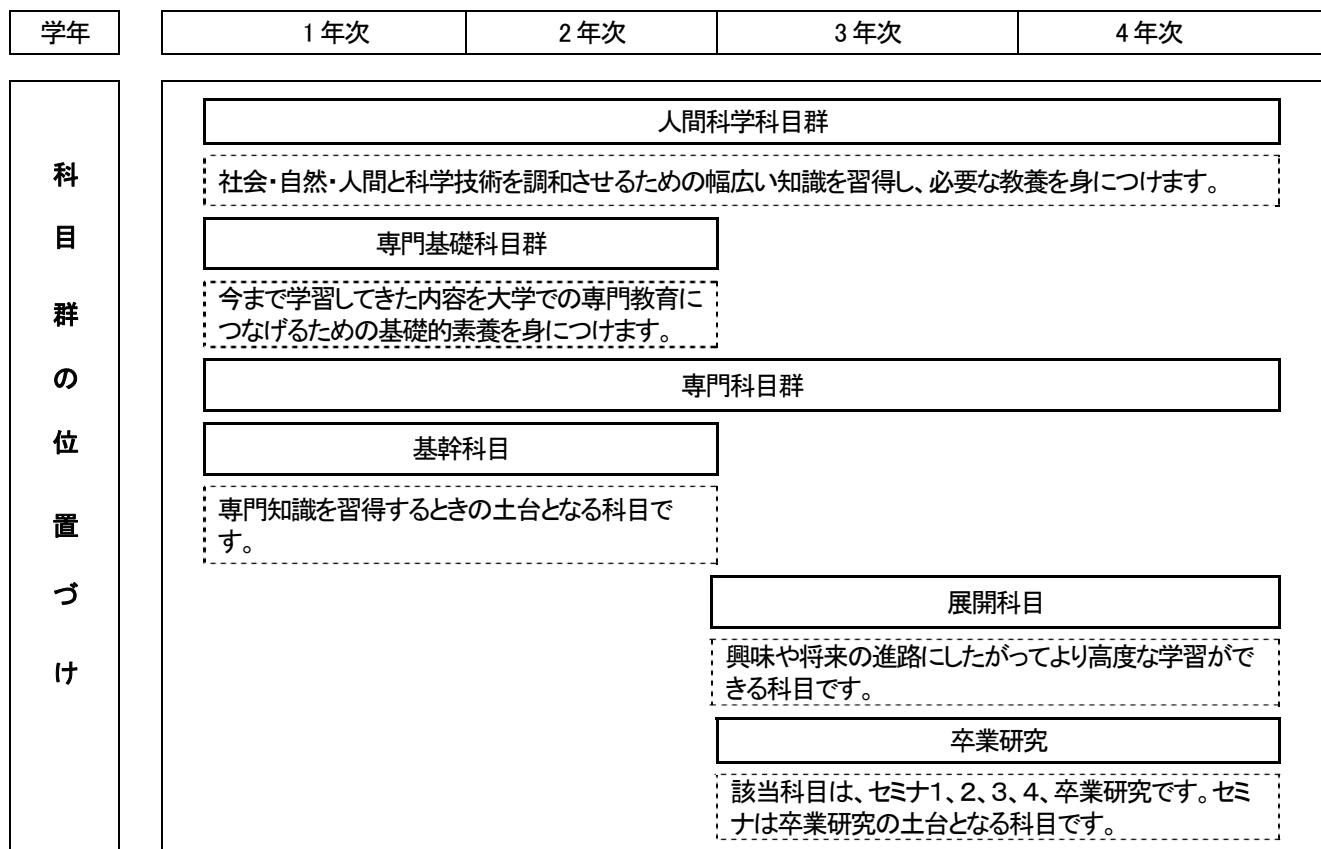


図1 総合情報学科の教育課程概念図

4.1 人間科学科目群

(1) 教育内容

a 人間科学科目群 Aグループ

① ファースト・イヤー・セミナー

ファースト・イヤー・セミナー(First Year Seminar、略してFYS、初年次セミナー)とは、新入生である皆さん方全員に、今後4年間の大学教育に不可欠な「**学習技法（スタディ・スキルズ）**」を習得してもらう科目です。いわば「**大学での学び方**」を学ぶ授業科目です。

実は、皆さんが高校まで普通だと思っていた勉強の仕方と、大学での学びの方法はずいぶん違うところがあるのです。この方法

の違いを理解した上で、「大学での学び方」に早く習熟し、積極的に大学の授業に参加してほしいのです。この点はとても大切です。大学での授業に戸惑ったり、どうにも積極的に参加できなかったり、せっかく勉学に打ち込んでもそれが空回りに終わって、4年たっても実を結ばない、こうしたことの原因の半分には、大学での学び方(つまり知的レベルをステップアップする方法)のベースができていないことが大きく関わっていることが分かっています。

この授業は次のように5つのパートでできています。

- I 大学で学ぶとはどういうことか
- II 効果的な授業の聴き方、効率的なノートのとり方、テキストの的確な読み方
- III 知的収蔵庫である大学図書館の利用法
- IV 文章の書き方の基本、レポート作成のルール、およびその実践
- V 効果的なプレゼンテーションのさまざまな方法とその実践

この授業の第一のねらいは、「大学での学び方」を習得してもらうことで、皆さんのが本学の教育にスムーズに適応できること、言いかえると皆さんのが手応えをもって大学生活を送ることができるよう手助けをするところにあります。しかしそれだけではありません。皆さんのが社会に出、職業人として、あるいは市民として、豊かに生きていこうとするとき、自己表現スキルや、他者とのコミュニケーション・スキルの必要性をきっと感じることでしょう。それらを可能にするのも、この授業が基盤となります。そうした最低限の知的技法もここには盛り込まれています。

こうした事項について、少人数クラスで初步からみっちりと学んでもらいます。皆さんはこの授業において、何より自分の知的ステップアップを信じて、全力でこれに応えねばなりません。

②外国語科目

外国語を学習することには2つの重要な事項があります。第1はコミュニケーションの手段としての言語能力の習得です。グローバル化の著しい今日においては外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は21世紀を生きる上で不可欠となります。第2はその言語の背景にある文化や思考を学ぶことです。言語の背景にある文化やものの考え方を理解することなく言語を学ぶだけでは思わず誤解やトラブルに巻き込まれることになります。技術者にとっても外国語の能力の習得はますます重要になってきています。

そのような外国語の学習には基礎的な事項の反復学習が大切になります。大変に思うかもしれません、外国語学習というのは努力をすればするほど成果も見込めるのです。本学では、1年次に「資格英語1・2」と「英語スキル1・2」、2年次には「英語スキル3・4」を必修科目として開講しています。さらに、3年次でも外国語科目を学びたい人のために「実践英語1・2(資格コース)」「実践英語1・2(スキルコース)」という選択科目を開講しています。

③健康科学演習

ヒトは外界の刺激と内的な意思活動により、身体運動を通して健康が維持増進されます。またヒトには本来運動欲求が存在します。この運動欲求は、乳児の半ば反射的な運動から青年期の意図的・自発的運動へと変化していきます。本学の健康科学の科目はこの運動欲求をより促進させるように考えられています。

健康科学演習は、1年次にA、Bを配当しています。これは、おもに個人の健康を促し、個人の運動能力の開発・維持・向上を目的とし、生涯スポーツとして運動を維持させる基盤を青年期のうちに身につけることを目的としています。

大学における健康科学演習は、週1回の実技で体力を向上させようとはしていません。なぜならば、週1回の運動では、トレーニング効果は期待できないからです。ではなぜ大学で体育実技が必要であるかといえば、この授業で学生諸君が将来(生涯スポーツとしても運動を継続して行えるような素地を身につけること)、スポーツを通じて集団を意識し、社会集団に対する適応力を向上させるといった大きな目的を持っているからです。

④基礎英語セミナ

基礎英語セミナでは、基本的な英単語を習得することと、習得した英単語を文脈のなかで正しく理解することを目標にします。

一目ですぐに認識できる語彙を多量に獲得することは、英語を読んだり、書いたりするうえで大きな力となるだけでなく、英語を聞いたり、話したりするうえで不可欠な力となってきます。英語による学術的探求とコミュニケーションの礎になる力が、十分な練習を通して養成されることになります。なお、3年次修了までにこの科目を修得できなかった場合には、4年間で卒業することができなくなります。

b. 人間科学科目群 Bグループ

大同大学の教育課程(カリキュラム)は、三つの科目群に支えられています。一つはそれぞれの学科や専攻でおもに学ぶ専門科目群、あとの二つは専門基礎科目群とここで説明する人間科学科目群です。人間科学科目群は上記 FYS と語学や体育の実技を含むAグループとBグループから成り立っています。なかでもBグループには、人間、こころ、文学、歴史、文化、政治、経済、社会のしくみや国際情勢、さらには身の回りの自然環境から広くは宇宙それに自分たちの生命や健康問題に至るまで、実にさまざまなテーマを扱う授業科目が配置されています。

開講が予定されているこれらの講義系と演習系の科目はすべて、皆さんにできるだけ多様な刺激を知的にも身体的にも与えることができるようになると工夫されたものばかりです。そのねらいはというと、トータルな人間教育に他なりません。言い換えると、皆さんが今をタブに生き、将来を担う一市民としての教養に気づいていただき、それに磨きをかけてもらえるようにと、これが何を描いても本科目群の大目的です。大学での専門教育はもちろん重要です。しかしそれを世の中に役立てながらも、一人ひとりが社会の中で楽しく豊かな人生を創出していくためにはやはり「教養」が欠かせません。本学では「教養」として、とくに「**コミュニケーション力**」、「**自ら考える力**」それと「**協働力**」に重点を置いています。こうした点で皆さんがますます自分らしさを発揮できるよう、B グループではさまざまな授業内容を取りそろえていますから、できるだけ偏りを作らず履修し、修得することが望されます。

現在、私たちは 21 世紀初頭に身を置いています。日本でも世界でも、世の中は目まぐるしく変化し続けています。良いことも好ましくないことも瞬時に地球規模で拡散し、われわれはグローバル社会の一員であることを余儀なくされています。とくに日本は超高齢化社会に突入しており、不透明で不確実な時代の到来がそこかしこで言われています。それでも世界は飽くなきマネーフローと途轍もないテクノロジーの進化を介してさらに緊密に結びつくとともに、かたやアメリカ南北大陸圏、アジア圏、欧州・アフリカ・中東圏でのちょっとした歪が、すぐにも世界各国に対して経済的にも政治的にも甚大な影響をもたらします。さらに今後はAI(人工知能)や IoT(モノのインターネット)に代表される技術革新によって人間の働き方が様変わりするばかりか、われわれの想像力のそのまま先を行くほどの近未来社会が待ち受けているようです。世界がより便利に、より快適な生活を享受できるようになることは嬉しいですが、日本の社会を見ても逆に格差社会などが一部現実のものとなりつつあるのは見逃せません。

そこで皆さんに具体的に求められていくのは、こうした時代を生き抜いていくための知恵や活力を自ら引き出して伸ばしていくことです。そのためには今を知り、そこから課題を見つけ出し、いろいろな角度から考え、そして解決策を自分であるいは仲間と協働しながら取り当てていく知とパワーが不可欠です。そして何よりも一人ひとりが自分の人生を存分に味わい、楽しめる力を発揮することが求められます。

大学では、人間と社会をよく知るためにも、人文・社会科学の学問分野の知見や見識が大切な役割を果たします。人文科学分野では、日本文学、外国文学、哲学、歴史学、文化人類学、心理学が人間の営みや心の働きを扱い、社会科学分野では法学、経済学、政治学、社会学、社会調査の方法、現代社会論、リベラルアーツ特別講義が社会の仕組みから国際情勢の展望にまで皆さんを誘います。

また自然科学のアプローチから宇宙、地球、生命、身体そのものを知ることに加えて、われわれの生活環境や健康を見直す諸科目も開講されています。自然科学概論、環境科学、地球科学、認知科学、生物学、健康科学の諸科目が、有益性と危険性をあわせ持つ科学技術、人間が生きる舞台としての地球環境、またヒトとしての人間、人間の心身・健康に焦点を当てています。

2年次、3年次には、「リベラルアーツ実践演習」として、アクティブラーニングやPBL(問題・課題解決型授業)を意識した少人数科目を開設しています。

大学での勉学は、確かに与えられたものを繰り返し習い覚える地道な作業と同時に、何が問題でその解決のためににはどう向き合えばよいのかについて自分自身が考え始め、仲間と語り合い、行動をおこすところに楽しさの発見と醍醐味があります。

皆さんにとって、人間科学科目群 B グループがその糸口となることを願っています。

(2) 学修到達目標

人間科学科目群の学修到達目標は、学位授与の方針と各授業科目との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

4. 2 専門基礎科目群および専門科目群

専門基礎科目群は、今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につける授業科目で、1年次および2年次に開講されます。

専門分野である専門科目群の授業科目は、基幹科目、展開科目、卒業研究から構成されており、基幹科目は1年次および2年次に、展開科目は2年次から4年次に、卒業研究は3年次および4年次に開講されます。「基幹科目」とは、専門科目の中でも根幹となる科目であり、専門知識を修得するための土台となる科目です。また、「展開科目」とは、各人の興味や将来の進路を踏まえ、自分が希望する分野の高度な学習を行う科目です。卒業研究は4年間の学習の集大成の科目であり、ここでは論文を作成します。

各科目において学ぶ内容や修得する内容については、後述する「学修到達目標」のカリキュラムマップに記載されています。また、どの学期にどのような科目を履修できるかについては、履修モデルを参照してください。

(1) 専門基礎科目群の授業科目(計17科目)

今まで学習してきた内容を大学での専門教育につなげるための基礎的素養を身につける授業科目で、1年次と2年次に開講される科目です。

総合情報入門セミナ、情報処理演習1、プログラミング演習1、データベース基礎、経営学概論、経営実践入門、経営実践1、経営実践2、スポーツ情報実践1、スポーツ情報実践2、入門簿記、簿記原理、会計学、コミュニケーションスキル1、コミュニケーションスキル2、経済学入門、情報統計学1

(2) 専門科目群の授業科目(計65科目)

専門科目群は、基幹科目、展開科目、卒業研究から構成されていますが、本専攻においては、基幹科目および展開科目は更に、以下の4つの領域に分類され、これらは本専攻における専門科目群の柱となっています。

- ・経営情報部門
- ・スポーツ情報部門
- ・データサイエンス部門
- ・キャリア開発部門

① 基幹科目

多くの基幹科目は、専門基礎科目群を学習した後、1年次の後期および2年次に設定されています。基幹科目のうち、専門科目群の4つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

- ・経営情報部門
 - 経営史、マークティング概論、人材マネジメント、企業経営戦略論、交通論、工業簿記、原価計算、民法、会社法、異文化コミュニケーション1、異文化コミュニケーション2、経営情報プロジェクト演習1、経営情報プロジェクト演習2、経営情報プロジェクト演習3
 - スポーツ情報部門
 - スポーツ情報科学概論、スポーツライフのデータサイエンス、スポーツ測定評価法、情報概論、ヘルスケアとスポーツライフ、スポーツ情報プロジェクト演習1、スポーツ情報プロジェクト演習2、スポーツ情報プロジェクト演習3、コーチング論、トレーニング論、スポーツ心理学、スポーツライフと社会、スポーツライフと栄養、スポーツライフと健康、スポーツコンディショニング、スポーツコンディショニング演習
 - データサイエンス部門
 - データサイエンス概論、情報処理演習2、情報統計学2、プログラミング演習2
 - キャリア開発部門

キャリア開発1、キャリア開発2、キャリア開発3

②展開科目

基幹科目で学習した内容を基に、3年次から4年次に掛けて開講される展開科目では、専門科目の発展的な内容を修得します。展開科目のうち、専門科目群の4つの柱となるカテゴリーに該当する科目は以下の通りです。

- ・経営情報部門

経営実践3、中小企業論、環境経営論、ベンチャービジネス論、国際経営論、物流論、経営情報論、インターネットビジネス、海外事情A、海外事情B、管理会計論、経営分析、金融と財務、労働法、知的財産権、

- ・スポーツ情報部門

プレゼンテーションスキル、スポーツ情報実践3、スポーツと安全、スポーツマネジメント

- ・データサイエンス部門

データサイエンス演習、データサイエンス演習2

- ・キャリア開発部門

キャリア開発4、インターナシップ

③卒業研究

卒業研究は、セミナ1、セミナ2、セミナ3、セミナ4および卒業研究から構成されており、この科目においては、各自が研究課題を設定し、その研究を行います。卒業研究は論文としてまとめ、最後に研究内容の発表を行います。

(3)学修到達目標

標準教育プログラムで述べた内容をどのような順序で学び、どのような知識を修得するのかについては、各科目の学修到達目標と学位授与の方針との関係性を示すカリキュラムマップにまとめて示しています。

5. カリキュラム・フローチャート

専門基礎科目群の授業科目は、総合情報学科における学びの土台となる科目からなります。また、専門科目群の授業科目は、柱となる4つのカテゴリーの基礎となる基幹科目とそれらの知識を発展させる展開科目、卒業研究からなります。図-1にあげた専門基礎科目群および専門科目群のカリキュラム・フローチャートを図-2、図-2. 1に示します。

総合情報学科 経営情報コース カリキュラム・フローチャート

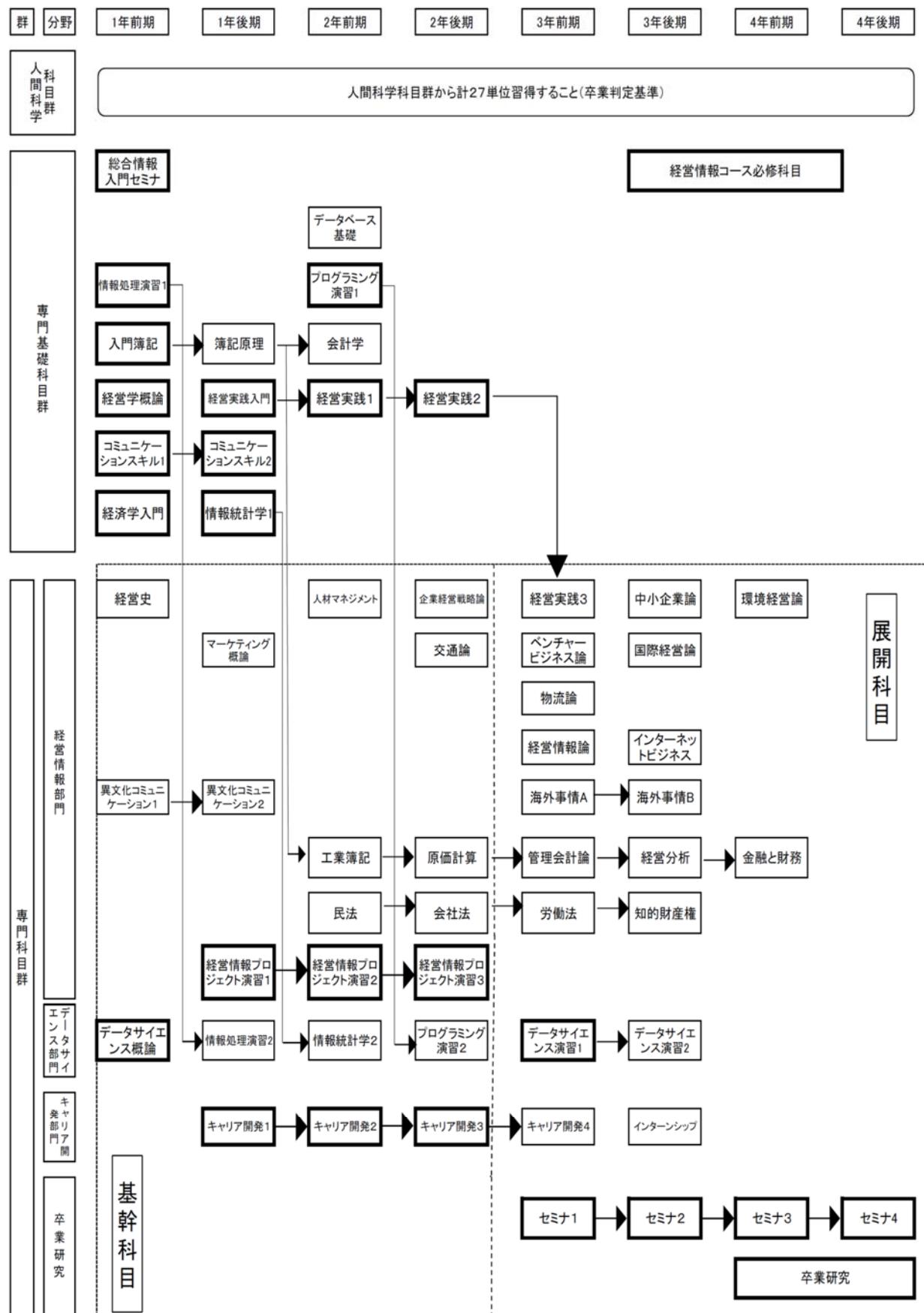


図-2 総合情報学科 経営情報コース カリキュラム・フローチャート

総合情報学科 スポーツ情報コース カリキュラム・フローチャート

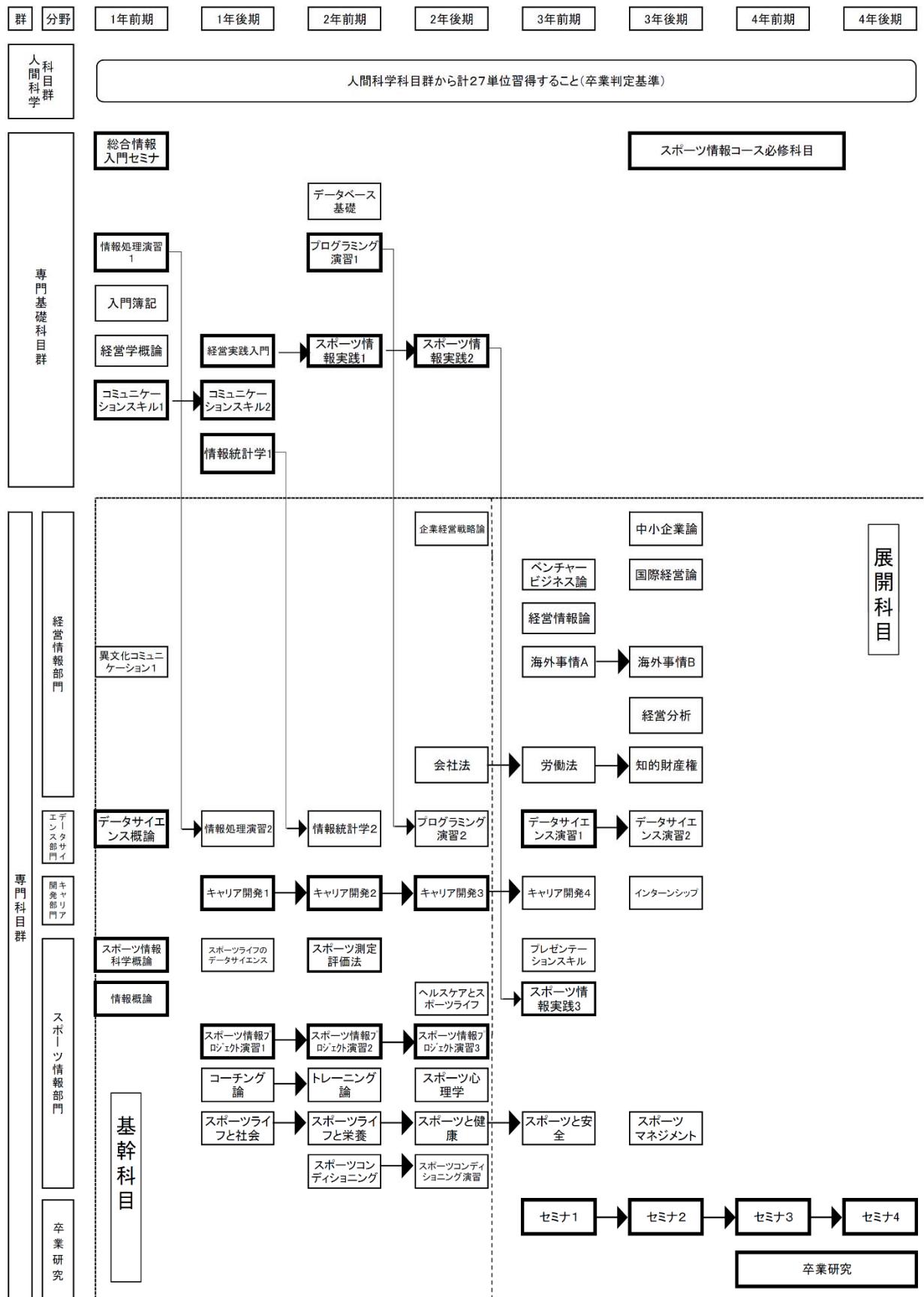


図-2. 1 総合情報学科 スポーツ情報コース カリキュラム・フローチャート

6. 履修モデル

総合情報学科では、「1. 学科の目的」および「2. 教育の目的と学位授与の方針」で述べた人材を育成するために二つの履修モデルを用意しています。一つ目は企業経営の分野で、人、物、金、情報のマネジメントを行える人材を育成するための経営情報コースの履修モデルです。二つ目は、スポーツを通して組織の運営を行える人材を育成するためのスポーツ情報コースの履修モデルです。

両モデル共に、1, 2 年次では主に基幹科目を学ぶときに必要な基本知識を習得しますが、経営情報コースでは簿記・会計の資格取得を目指すために、1 年次から専門基礎科目及び専門科目の中の科目を履修し、3年次の受験を目指します。

スポーツ情報コースの履修モデルでは、スポーツを通して組織の運営を行える人材を育成するためにスポーツと社会との関係を学ぶ科目に加え、スポーツ指導者資格取得を目指すための科目を用意しています。

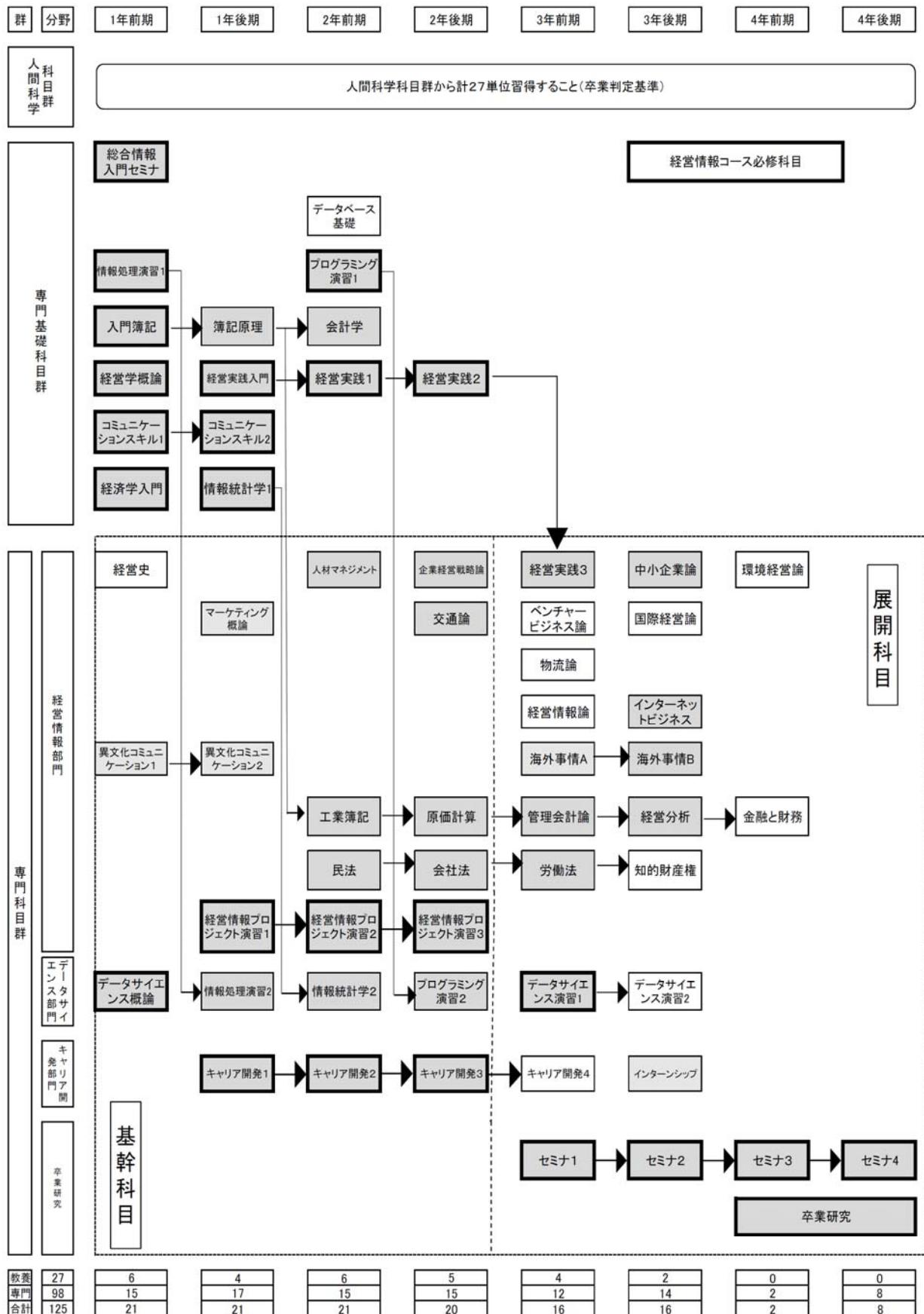
経営情報コース履修モデル

この履修モデルは、企業経営の分野で、人、物、金、情報のマネジメント能力を兼ね備えた人材を育成するための科目が配置されています。企業経営に関する基礎的理義の上に、企業経営の企画、戦略に不可欠な経営学及び経営情報処理に関する領域での実践的な学修を目指しており、開講されている科目を学年進行とともに順次体系的に履修していくことで問題解決能力を兼ね備え、ビジネス界のニーズに応えたカリキュラムで、これから社会に支持される新ビジネスの創造を目指す人材育成を目標にしています。

スポーツ情報コース履修モデル

この履修モデルはスポーツを通じて実社会における組織のマネジメントを行える人材を育成するための科目が配置されています。スポーツ関連の理論と実践の科目を中心に、スポーツ情報系のデータサイエンスを学ぶことで、スポーツ実践とスポーツ指導に活用できる実践スキルを習得します。さらにコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルなどを学び、子供から高齢者までを対象とした地域スポーツクラブやスポーツ指導者、コーチ、組織経営を理解したマネジメントスタッフを養成します。本履修モデルはスポーツに精通し、かつ地域社会で活躍できる人材の育成を目標とします。

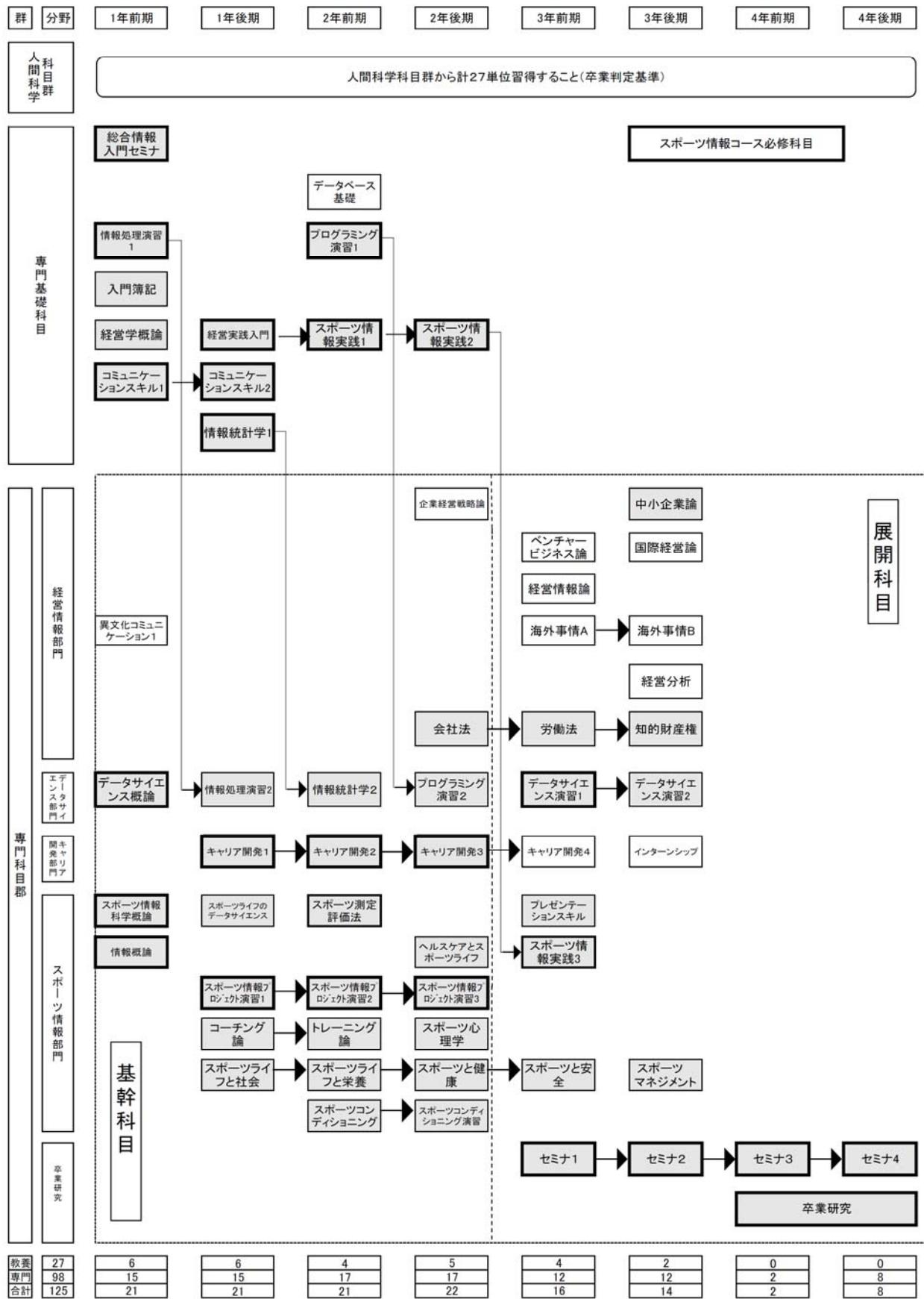
総合情報学科 経営情報コース履修モデル



☆この図は履修モデルの一例を示したもので。実際に履修するときには、自分の考えで履修科目を選んで下さい。

※ 網掛けは履修推奨科目

総合情報学科 スポーツ情報コース履修モデル



☆この図は履修モデルの一例を示したものです。実際に履修するときには、自分の考えで履修科目を選んで下さい。

※ 網掛けは履修奨励科目

情報学部 総合情報学科 カリキュラムマップ

大学の目的	A. 英語の習得に積極的に取り組み、英語力を向上させ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。 B. 外国語学習を通して異文化に関する理解を深め、国際社会に対応するための素養を身につけることができる。 C. 規律ある生活を維持し、心身の健康管理を心がけ、大学における学習生活の基礎を身につけている。 D. 豊かな人間性と心の問題について幅広い知見を有し、自律的かつ柔軟に考えることができる。 E. 市民社会の一員として、社会科学の基礎知識に基づき、価値観の多様性を踏まえた適切な行動が選択できる。 F. 自然科学的、数理的なものの見方を通じて、日常生活において良識ある判断を下すことができる。 G. 現代社会の問題群を多角的にとらえ、コミュニケーションをとりながら問題解決に当たることができる。 H. 知と技能を高めていく主体的な学習態度が備わり、目標実現のために行動できる。	I. 情報化社会にふさわしい倫理観を持って他者と協調・協働し、適切にコミュニケーションができる。 J. データサイエンスに関する知識・技能を身につけ、経営またはスポーツの分野に応用できる。 K. 経営またはスポーツ分野の基礎から応用までの理論・概念や方法論に関する知識を身につけている。 L. 経営またはスポーツ分野の情報や調査・実験データ等を論理的に分析することができ、かつ問題解決のために応用できる。 M. 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想の下、独自に工夫・応用し、新たな知見を創造する力が備わっている。
学部の教育研究上の目的		
学科の教育研究上の目的		

科 目 群	区 分	授 業 科 目	履修区分 (単位)		開 講 期	学修内容	学科(専攻) の学位授与の方針															
			必 修	選 択			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合 計		
人間科学科目群	Aグループ	ファースト・イヤー・セミナー	1	1 [2]	1	高校と大学の学びの違いが理解できる。 ノートの取り方が効果的にできる。 文章を読んで、概要・要点をまとめることができる。 図書館の利用法がわかる。 レポートの作成の必要手順が分かる。 基本的なレポートの作成ができる。 プレゼンテーションの基本スキルが理解できる。 プレゼンテーションの初歩的な実践ができる。 授業科目的貢献度	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10		
						この授業では、高等学校までに学んだ英語を土台として、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのため、TOEICテストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方法を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEICに出題される基礎的な語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を大まかに理解できる。 英文を読み、その内容を大まかに理解できる。 基礎的な英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文をでき得る限り正確に音読することができる。	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	20	
						授業科目的貢献度	80	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	100		
						この授業では、前期に開講されている資格英語1の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのため、TOEICテストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方法を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEICに出題される語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 基礎的な英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。	40	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	100
						基礎的な英文をでき得る限り正確に音読することができる。	0	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	20		
						授業科目的貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	
						この授業では、前期に開講されている資格英語2の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する基礎能力を養成します。そのため、TOEICテストの形式や傾向に慣れるための問題演習を通じて、リーディングとリスニングに関する学習方法を習得してもらいます。また、リーディングやリスニングの基礎となる語彙力の学習や基礎的な英文法も学習します。	TOEICに出題される語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 基礎的な英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。	40	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	100
						基礎的な英文を正確に音読することができる。	0	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	20		
						授業科目的貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	
						この授業では、英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「異文化理解」、「食」、「芸術」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聞くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができます。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができます。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができます。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができます。	38	56	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	20
						授業科目的貢献度	0	2	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	100	
						題材に関して、基礎的な理解を深めることができます。 題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができます。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができます。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができます。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができます。	6	10	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	20		
						授業科目的貢献度	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20		
						題材に関して、基礎的な理解を深めることができます。 題材に関する基礎的な対話文の大まかな内容を聞き取ることができます。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができます。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができます。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができます。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	
						授業科目的貢献度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)	開講期	学修内容	学修到達目標
人間科学科目群	A グループ	英語スキル2	1	2	この授業では、前期に開講されている英語スキル1の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の基礎的な能力の向上をはかります。授業で扱う題材は「日本文化」「環境問題」などの大学生として問題意識を持ち、深く考察してもらいたい事項を厳選しています。このような題材の英文を読み、聞くことにより、英語のリーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、主体的に考え、自分の意見を英語で記述したり、ペアワークやグループワークを通じて発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を向上させ、英語による発信力を高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができる。 題材に関する基礎的な対話文の内容を聞き取ることができる。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。 授業科目の貢献度
					「英語スキル1・2」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」「スポーツ」「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聞くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、基礎的な理解を深めることができる。 題材に関する対話文の大まかな内容を聞き取ることができます。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができる。 授業科目の貢献度
					この授業では、前期に開講されている英語スキル3の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の更なる向上をはかります。授業では、題材として、「食」「スポーツ」「外国語学習」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。このような題材を読み、聞くことにより、リーディング力およびリスニング力を向上させます。さらに、その題材について、自分で主体的に考え、それを英語で記述したり、発話する活動をしてもらい、ライティング力やスピーキング力を身につけてもらい、英語による発信力をいっそう高めることを目的とします。	題材に関して、理解を深めることができます。 題材に関する対話文の内容を聞き取ることができます。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができる。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができる。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができる。 授業科目の貢献度
		実践英語1(資格コース)	1	5	この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのため、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEICで高得点を取るために必要な最低限の語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容をほぼ理解できる。 英文を読み、その内容をほぼ理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を解くことができる。 基礎的な英文をほぼ正確に音読することができる。 授業科目の貢献度
					この授業では、1・2年次に学んだ「資格英語1・2」、「英語スキル1・2」、「英語スキル3・4」を踏まえ、英語の4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」「外国語学習」「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになりますことを目指します。	題材に関して、基礎的な理解を十分深めることができます。 題材に関するやや難しい対話文の大まかな内容を聞き取ることができます。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、できるだけ正しく発音することができます。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で簡潔に記述することができます。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語である程度伝達することができます。 授業科目の貢献度
					この授業では、前期に開講されている実践英語1(資格コース)の内容を継続・発展させるかたちで、英語のリーディング力およびリスニング力の向上をはかり、TOEICに対応する能力の向上を狙いとします。そのため、TOEICの問題演習や語彙力の強化をはかります。	TOEICで高得点を取るために必要な語彙の意味を理解できる。 短い英文を聞き取り、その内容を理解できる。 英文を読み、その内容を理解できる。 英文法の知識を活用し、TOEICの問題を短時間に解くことができます。 基礎的な英文を正確に音読することができる。 授業科目の貢献度
					この授業では、前期に開講されている実践英語1(スキルコース)の内容を継続・発展させるかたちで、英語の4技能の一層の向上をはかります。授業では、題材として、「異文化理解」「外国語学習」「芸術」などを扱い、大学生として問題意識を深めてもらいたい事項を厳選しています。特に、発信力の向上に重点を置き、題材に関する自身の意見を英語で記述したり、受講者がその題材について英語で意見交換ができるようになりますことを目指します。	題材に関して、理解を十分深めることができます。 題材に関するやや難しい対話文の内容を聞き取ることができます。 聞き取った対話文を繰り返し、発音練習し、正しく発音することができます。 題材に関して、自分の意見や考えを簡単な英語で記述することができます。 題材に関して、自分の意見を他者に簡単な英語で伝達することができます。 授業科目の貢献度

学科(専攻) の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
12	8												20
12	8												20
12	8												20
10	8						2						20
10	6	2				2							20
56	38	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	100
14	6												20
12	5					3							20
12	5					3							20
12	5					3							20
62	26	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	100
10	7		2	1									20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	2					6							20
58	33	0	2	1	0	6	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
12	8												20
12	8												20
12	8												20
12	8												20
60	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分	開講期	学修内容	学修到達目標	
			(単位) 必修	選択 自由			
人間科学科目群	Bグループ	哲学B	2	2・4・6	モラル、道徳の成り立ちについてその系譜を辿り、生き方を考える。	哲学という学問そのものの意義について理解できる。 哲学者の考察をふまえ、さまざまな日常的テーマについて哲学的考察を示すことができる。 「人間力」を測るものさしを複数もつことができる。 おおまかに倫理思想の流れについて理解することができる。 自分の人生について、哲学的な指針を持つことができる。	
						授業科目的貢献度	
						現代における人間像について様々な角度から考えることができる。 様々な文化を比較することができます。 習慣の意味が理解できる。 形のないものの価値について考えることができます。 現代社会がかかえる問題点について考えることができます。	
		文化人類学A	2	3・5		授業科目的貢献度	
						アイデンティティとは何かについて理解できる。 文化について様々な考え方が理解できる。 現代社会における通儀礼の意味が理解できる。 「変わっていくもの」と「変わらないもの」についてその意味を考えることができます。 コミュニケーションについて様々な捉え方ができる。	
						授業科目的貢献度	
	Bグループ	文化人類学B	2	4・6		文化事象を歴史的に捉え、変化するものと変化しないものを区別する。	
						日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。 歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。 過去の様々な事例から教訓をつけ、現代社会にいかそうとすることができる。	
						授業科目的貢献度	
		歴史学A	2	1・3・5		日本の近代化が進められていく背景や文明開化が社会に与えた影響を、幕末以降の東アジア各国及び西欧列強との関係をもとにして理解する。	
						日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。 歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。 過去の様々な事例から教訓をつけ、現代社会にいかそうとすることができる。	
						授業科目的貢献度	
	Bグループ	歴史学B	2	2・4・6		日本が主導的に起こした戦争や戦後に繰り返される戦闘行為の概要を押さえ、かつそれぞれの発生原因を追及することにより、戦争の連鎖を断ち切るために何が必要かを導き出す。	
						日本が関係した近現代の戦争の内実を把握し、戦争と平和について自ら考えることができる。 歴史的な事象や時代の流れを、図や表を使ってわかりやすく説明することができる。 過去の様々な事例から教訓をつけ、現代社会にいかそうとすることができる。	
						授業科目的貢献度	
		心理学A	2	1・3・5		感覚と知覚の違い、および知覚機能の特徴（錯視など）について理解することができます。 学習・記憶の基本的メカニズムについて理解することができます。 欲求と動機、感情の特徴や機能について理解することができます。 発達という概念、および発達過程の様相について、理解することができます。 パーソナリティという概念、およびそれをとらえる枠組み（特性論・類型論）と方法（質問紙法・投影法など）について、理解することができます。	
						授業科目的貢献度	
						自己概念および自己表現（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができます。 人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができます。 対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができます。 集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができます。 集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができます。	
	Cグループ	心理学B	2	2・4・6		他者（たち）との関わり、社会での位置どりの観点から人間の行動・態度を捉えなおし、あらためて自分のあり方を考える。	
						自己概念および自己表現（自己呈示・自己開示）の特徴や機能について、理解することができます。 人間の「ものや人に対する見方」（社会的知覚・対人認知）の特徴について、理解することができます。 対人魅力と対人関係の進展、および対人的コミュニケーションの特徴や機能について、理解することができます。 集団のもつ特徴や機能、および集団内での人間の行動について、理解することができます。 集団間関係から生じる問題（内集団びいきやステレオタイプ・偏見）について、理解することができます。	
						授業科目的貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
			20										20
			20										20
			20										20
0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標		
			必修	選択					
人間科学科目群	教育原理		2	1		西洋における教育思想や近代公教育制度の成立とわが国への導入過程を理解し、教育理念の多様性と今日的な教育問題について歴史的背景・社会的状況と関連づけながら考える。	教育の目的について考え、多様な教育の理念が思索・蓄積されてきたことを理解することができる。 近代公教育制度の成立について、歴史的背景を踏まえて理解することができる。 教育を成り立たせる要素についてそれぞれを関連づけながら理解することができる。 近年の教育課題や教育改革の動向を教育の歴史や社会的状況と関連づけながら理解することができる。		
							授業科目的貢献度		
			2	3		「教育」という営みをとおしてみえてくる人間の変化、他者・世界との関わりのあり様を捉えると同時に、それから「教育」のあり方を考える。	「発達」とはどのようなことを理解し、認知・感情・社会性（愛着など）の発達の様相を把握することができる。 発達上の「青年期」の特徴を理解し、青年にまつわる現代的問題について心理学的な観点から考察することができる。 条件づけや観察学習、記憶の基本的なメカニズムを理解することができる。 欲求と適応（／不適応）との関係、およびフラストレーション・コンフリクトの発生メカニズムを理解することができる。 動機と動機づけの違い、および達成動機と親和動機の関連について理解することができる。 「リーダーシップ」や「ソシオメトリー」などの観点から、学級集団の特徴・構造を把握することができる。 生徒の「問題行動」の内容・実態を把握し、それらへの対応策について心理学的な観点から考察することができる。 「パーソナリティ」概念、およびそのとらえ方を理解することができる。		
							授業科目的貢献度		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
	教育心理学		2	3			政治学の基礎概念（政治、権力、国家など）を理解する。 自由民主主義の理論と政治制度について理解する。 議院内閣制と大統領制を比較し、それぞれの特徴を理解する。 政治制度の基本的枠組み（国会、内閣、選挙、政党、利益集団、地方自治など）を理解する。 自分と政治との関わりについて考えることができる。		
							授業科目的貢献度		
							0 0 0 80 20 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
							20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
Bグループ	政治学A		2	1 3 5		政治学の基礎的な概念と理論を学ぶことを通じて、政治現象を的確に理解する力を身につけ、市民として現実政治とどのように関わっていくのかを考える。	政治制度の基本的枠組みと特質について理解する。 現代民主主義の理論的特徴について理解する。 現代民主主義の制度的特徴について理解する。 現代政治における政党の機能および政党制の展開について理解する。 授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。		
							授業科目的貢献度		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
							20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
	政治学B		2	2 4 6		現代日本を含む先進民主主義諸国の政治的動向について、政治学理論および制度と動態の視点から考察し、理解を深める。	経済学における基本的な用語や理論を身に着け、自分の言葉で説明することができる。 資本主義の意味と影響を把握し、説明することができる。 経済・産業の見取り図を描き、そこに自分や身近な存在を位置づけ、説明することができる。 経済活動の役割とその限界を認識し、適切に活用することができる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。		
							授業科目的貢献度		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
							20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
経済学A	経済学A		2	1 3 5		経済学の基礎的な理論を学びつつ、現代社会における様々な現象とその背後にある経済のメカニズムを把握する。以上を通して、社会科学的な思考法を身に着ける。	経済データを用いて経済関係やその変化を説明することができる。 日本の経済構造について、国際的視野を交えつつ説明することができる。 歴史上に起こった出来事が経済をどのように変えたのかを説明することができる。 日本の企業の特性・構造について説明できる。 講義で理解したことを適切に要約するとともに、考えたことをデータに基づいて論理的に表現することができる。		
							授業科目的貢献度		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
							30 10 20 10 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
	経済学B		2	2 4 6		現代社会の経済事情を取り扱いつつ、その背後にある歴史的経緯や構造を理解する。また、以上の作業を通じて、経済分析に必要な基礎的なスキルを身に着ける。	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。 授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。 授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。 日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。		
							授業科目的貢献度		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
							25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
法学A	法学A		2	3 5		法の成り立ちと、現代社会の諸事件を取り上げながら法的知識の基礎を修得する。	授業で扱う学説や判例を正確に理解できる。 授業で扱う学説や判例の当否を論理的に説明できる。 授業で得た知見を利用して、現実の政治問題や社会問題を論評できる。 日常生活での法的知識の重要性を理解し、説明できる。		
							授業科目的貢献度		
							0 0 0 0 100 0 0 0 0 0 0 0 0 100		
							25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25		

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
				30									30
				30									30
				20									20
				20									20
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10									10
				10	10								20
				10									10
				10									10
				10									10
				10	10								20
				10									10
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分(単位)		開講期	学修内容	学修到達目標							
			必修	選択										
人間科学科目群	Bグループ	法学B	2	4・6	日本国憲法とその特質について、実例・判例を通じて考察する。	日本国憲法の制定経緯が説明できる。 日本国憲法の基本原則が説明できる。 日本国憲法における国民主権の意味を理解し、説明できる。 基本的人権の内容と意義を理解し、説明できる。 表現の自由とその制約原理を説明できる。 違憲立法審査権の具体的な事件を説明できる。	授業科目的貢献度							
							社会学のイメージをつかむ。							
			2	1・3・5			方法論的個人主義（ヴェーバー）と方法論的集団主義（デュルケーム）の違いを理解する。 社会における不平等のあり方を、階級・階層という概念と結びつけて考えられる。 「内集団」「外集団」のメカニズムを理解する。							
							東アジアにおけるヒト・モノ・カネの動きの変化を考えながら、日本社会のグローバル化を捉えること。授業で扱った政治争点について理解し、多面的に考えることができる。							
			2	2・4・6			授業科目的貢献度							
							社会学が持つ分析手法（量的・質的）や社会問題の分析視角について、イメージをつかむこと。 個人化という概念について説明できるようになること。 ネオリベラリズム（新自由主義）という概念について説明できるようになること。 非正規雇用が増加する社会的背景が説明できるようになること。 グローバル化が進む中で、日本を含めたアジアが大きく変化しつつあることを理解する。							
		社会調査の方法A	2	3・5	質的・量的な社会調査の基本的な知識と手法を理解する。	社会調査の目的とその種類（質的調査と量的調査）について理解する。 母集団及び標本抽出について理解する。 量的調査のための統計学の基本的知識（基礎統計量、クロス集計表、カイ二乗検定）について理解する。 統計学的な仮説検定の手順について正しく理解する。 質的調査の種類とその技法を先行研究から学びとる。	授業科目的貢献度							
							社会調査の多様な方法とそれぞれの利点を理解する。							
			2	4・6			統計学的手法を用いて因果関係を分析する考え方について理解する。 疑似相関とシンプソンのパラドクスについて理解し、多変量解析の重要性を理解する。 調査票作成の技法（ワーディングや尺度構成）を身につける。 質的調査の調査計画を立てられるようになるとともに、考慮すべき調査倫理を理解する。							
							授業科目的貢献度							
現代社会論	A	社会調査の方法B	2	3・5	ある特定の国や地域（日本を含む）について、政治・経済・社会・思想・文化・歴史など学際的なアプローチを通じて学ぶとともに、自らの国際的視野を深める。具体的には戦後日本論をテーマに、政治的・経済的・国際的視点から、戦後の日本の歩みを分析・検討する。	授業で扱う国・地域・人物などについての基本的な情報を理解する。 担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。 地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い合わせ直すことができる。	授業科目的貢献度							
							授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する。							
			2	4・6			担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。 授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。 地域研究（エリアスタディーズ）で獲得した視野を通じ、これまでの自らの常識を問い合わせ直すことができる。							
		現代社会論B					授業で扱う国・地域・人物などのについての基本的な情報を理解する。							
							担当者の専門分野からの学術的アプローチの面白さを理解する。							
							授業で学修した内容を踏まえ、その国・地域・人物に固有の特徴を文章で説明することができる。							

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
				10									10
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				30									30
				20									20
				20									20
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				30									30
				10									10
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				20									20
				20									20
				20									20
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分	開講期	学修内容	学修到達目標	
			(単位) 必修	選択 自由			
人間科学科目群	Bグループ	教育社会学	2	2	社会学的なアプローチから学校教育と社会の関係性を理解するとともに、学校自体を一つの社会として捉え、その文化的特質について考える。	自己の教育経験・教育観を相対化し、種々の教育事象・教育問題を社会学的なものの見方によって考察することができる。 学校教育を支える法や制度について理解し、具体的な例をもとに説明することができる。 教育行政や学校経営の歴史およびその変容について理解し、説明することができる。 学校と保護者・地域との協働について具体的な事例をもとに説明することができる。	
						授業科目の貢献度	
		健康科学A	2	1 3 5		体の仕組みについて理解できる。 発育の仕組みについて理解できる。 年齢とからだの関係について理解できる。 健康について理解できる。 健康に対する取り組みについて理解できる。	
						授業科目の貢献度	
						身体の動く仕組みについて理解できる。 人体の構造について理解できる。 障害について理解できる。 傷害について理解できる。 体力について理解できる。	
		健康科学B	2	2 4 6	身体の解剖学的構造、生理学的な仕組みを理解することで身体の働きについての理解を深める。	情報処理アプローチに基づく認知科学の方法論を説明することができる。 知覚、記憶といった認知機能の仕組みを説明することができる。 認知機能の神経機構について説明することができる。 ヒューマンエラーの原因について説明することができる。 認知科学の哲学的な問題を説明することができる。	
						授業科目の貢献度	
						認知科学がどういった学問であるかについて、基本的な説明をすることができる。 我々が当たり前のように行っている認知について自発的な疑問を立て、それに対して参考文献等を用いながら論理的な説明を与えることができる。 記憶のメカニズムや分類について説明することができる。 自覚できない心の働きがどのようなプロセスを経て、人間の行動に影響しているかを説明することができる。 ヒューマンエラーが生じる理由と、それを未然に防ぐ方法について論じることができる。 ヒトとヒト以外（ロボット、昆虫、ネアンデルタール人等）の共通点と相違点を説明することができる。	
						授業科目の貢献度	
						地球内部の運動が地球環境に及ぼす影響を理解する。 地球環境問題のメカニズムの基礎を理解する。 地球環境問題対策を理解する。 地球の進化と環境変化を結びつけて理解する。	
	Cグループ	環境科学A	2	3 5	環境科学の基本とこれまでの環境問題対策を実例を通じて修得する。	授業科目の貢献度	
						海洋と大気を総論的に理解する。 太陽系の惑星と地球環境の違いを理解する。 生態資源とエネルギー資源枯渇問題を理解する。 生命の生存条件を理解する。	
						授業科目の貢献度	
						科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。 科学リテラシーの必要性を理解できる。 近代科学の特徴を説明できる。 20世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。 科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。	
						授業科目の貢献度	
自然科学概論A	2	1 3 5	2	4 6	環境問題と人間社会の関係を理解し、今後の環境問題へのアプローチを考察する。	科学で扱える問題と扱えない問題を区別できる。 科学リテラシーの必要性を理解できる。 近代科学の特徴を説明できる。 20世紀初頭に起こった自然認識の大きな変化を理解できる。 科学・技術と社会との関係を主体的・批判的に考えることができる。	
						授業科目の貢献度	

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
				25									25
				25									25
				25									25
				25									25
0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	100
				10									10
				10	10								20
				10		10							10
				10	10	10							30
				10	10	10							30
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		10		10									20
		10		10									20
		10		10									20
		10		10									20
0	0	20	30	50	0	0	0	0	0	0	0	0	100
		20											20
		20											20
		20											20
		20											20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					10								10
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
						10							10
						20							20
						20							20
						20							20
						20							20
0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
							10						10
							20						20
							20						20
							20						20
0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
								10					10
								20					20
								20					20
								20					20
0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
									10				10
									20				20
									20				20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100
										10			10
										20			20
										20			20
										20			20
0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	100

科 目 群	区 分	授業 科 目	履修区分 (単位)		開 講 期	学修内容	学修到達目標				
			必 修	選 択							
人間 科学 科目群	B グル ープ	自然 科学 概論 B	2	2 ・ 4 ・ 6		2 ・ 4 ・ 6 化学は物質の本質、あり様、変化を探る学問である。原子、電子をパーツとする物質の基本と多様性の概要を学習しながら、現代社会での科学技術における化学と関連分野の意味と役割を学習する。	物質の成り立ちの基本を理解できる。 物質科学の成立とその歴史の概要を説明できる。 現代社会における物質科学の役割と限界を説明できる。 現代社会における物質科学とその応用としての技術の有用性と危険性を主体的・批判的に考えることができる。 未来に向かって、物質科学・技術と人間社会のかかわりあいを展望できる。				
							授業科目的貢献度				
		生物 学A	2				生物学、進化生物学、行動学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と、それらを融合した保全生物学に応用する思考方法を理解することができる。 生物多様性のメカニズムについて説明することができる。 遺伝的多様性の必要性について説明することができる。 生物間のネットワークや環境の影響について説明することができる。 環境保全の必要性を理解し、自らと異なるヒトの考え方や文化的多様性、生物の多様性について理解を試み、共存方法を模索できる。				
							授業科目的貢献度				
							生物学の基本を習得し、人間を生物として捉え、特別扱いしない視点を獲得する。				
		生物 学B	2			4 ・ 6 動物の行動の機能を学び、そこから人間行動の特質を進化的な視点から考察する。	進化理論や行動学、社会生態学、生理学、遺伝学等のミクロ系・マクロ系生物学の基礎概念と生物の進化メカニズムを理解することができる。 ヒトの進化史を大まかに説明することができる。 自然選択における環境と生物の関係について説明することができる。 性選択と自然選択の違いについて説明することができる。 脳やホルモン、遺伝子による行動への影響について理解することができる。				
							授業科目的貢献度				
	B グル ープ	地理 科学A	2	3 ・ 5 地球の成り立ちを学び、気象変動を理解する。		与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。 最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。 鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。 水の特性から生物に与える影響が理解できる。 古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。 地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。	授業科目的貢献度				
							授業科目的貢献度				
		地理 科学B	2				与えられたデータから震源決定の方法および、GPSの原理が理解できる。 最新の観測技術を学び、プレート運動が理解できるようにする。 鉱物の観察から、結晶構造の特徴を単位格子から読み解けるようになる。 水の特性から生物に与える影響が理解できる。 古生物の化石の観察から、生物の進化の歴史が理解できる。 地球の過去の姿から、地球の将来の像を考察する。	授業科目的貢献度			
							授業科目的貢献度				
特別 講義 アリーツ	リベラ ルア ーツ	集中 講義 9 月	2			現代ヨーロッパの政治的動向と国際関係を学び、わが国を取り巻く国際環境と進路選択と関連づけて考察する。	天体の距離計算の歴史を紐解きながら、最新の観測方法を理解できる。 様々な波を観察することによって、津波のメカニズムを理解し、災害に対する備えを養う。 地球の運動のデータから暦の原理が理解できる。 日本の天気図から、日本列島で起こる様々な自然災害について考察する。 太陽系の進化から地球の未来像を把握する。	授業科目的貢献度			
							授業科目的貢献度				
							理工系・情報学系の学生が人文社会科学系の国際的教養を身につけることができる。 問題解決に向けた新たな提案や構想を持つことができる。 国際事情を理解し、人間学との関連で人生を如何に生きるべきかを考えることができる。	授業科目的貢献度			
	リベラ ルア ーツ	実践 演習 アリーツ	2	3 ・ 5 少人数のセミナー形式での議論・実験・フィールドワーク等の体験を通して、自然科学・社会科学・人文科学分野における知識や技術の意義とその活用方法を学ぶ。		学修内容に関連して、自ら課題を発見し設定できる。 諸科学から一つのアプローチを選択し、課題に関する情報を収集整理できる。 課題解決に向けての考察を論理的に進めることができる。 自らの課題に対して解決まで導くことができる。 コミュニケーションを通じて相手に自らの課題解決の営みを伝えることができる。	授業科目的貢献度				
							授業科目的貢献度				
							授業科目的貢献度				

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					10								10
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
					40								40
					20								20
					40								40
0	0	0	0	0	60	40	0	0	0	0	0	0	100
					20								20
					20								20
					20								20
					20								20
0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分	開講期	学修内容	学修到達目標			
			(単位)						
専門科目群	経営情報プロジェクト演習	2(経営情報コースのみ)	4	本授業では、経営情報コースで学ぶ各分野の研究および産業界の動向などを学び、各自が具体的なテーマを設定し、そのテーマについて調査し、調査した内容を発表する。	得られた結果を基にして考察した内容を報告書にまとめ、その概要を説明できる。 授業科目的貢献度	経営情報に関連する課題を自ら抽出できる。 経営情報に関連する課題の調査、データ整理、分析を自ら実施できる。			
						スポート情報プロジェクト演習			
		2(スポーツ情報コースのみ)	4	スポーツ活動に関わる様々なカテゴリーでのスポーツ実践においてそれぞれの課題や問題点を見つけ出し、その解決策や対策方法を考え、実際に指導・コーチングを行うことで、課題解決方法を見出し、自らの知識やスキルを高めることを目的とする。		スポーツ場面に関連する課題を自ら抽出できる。 テーマに関連した課題の解決方法を提案できる。 実践で分かりやすく効果のある方法で指導やコーチングができる。 授業科目的貢献度			
		2(スポーツ情報コースのみ)				情報通信社会の変遷を理解し、現代における情報の特性を説明できる。 情報セキュリティやマナー、モラルを理解し、情報を適切に受発信できる。 個人情報保護と知的財産保護の重要性を理解し、適切な利活用のあり方を説明できる。 今後の社会で起こりうる諸課題について考え、その背景や解決策を具体的に説明できる。 情報通信社会における倫理観とは何かを考え、快適に過ごすための方策を具体的に説明できる。 授業科目的貢献度			
	コミュニケーション	2	1	情報化の発展は、個人や社会に多大な恩恵をもたらす一方、扱い方を誤れば被害者や加害者にもなりかねない危険性もある。本講義では、日々変化し続ける情報通信社会を概観しながら、この社会を快適に過ごすための倫理観の修得を目指す。	情報化の発展は、個人や社会に多大な恩恵をもたらす一方、扱い方を誤れば被害者や加害者にもなりかねない危険性もある。本講義では、日々変化し続ける情報通信社会を概観しながら、この社会を快適に過ごすための倫理観の修得を目指す。	異文化と接することの意義を理解できる。 非ネイティブのためのビジネス英語の基礎を理解できる。 英語圏の文化を日本語に変換して理解できる。 日本の文化を英語に変換して発信できる。 授業科目的貢献度			
						情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。			
	基幹科目	2(経営情報コースのみ)	2	人は、自己と他者の違い、自文化と他文化の違いを知ることにより、自分自身と自文化を理解する。異文化接触のありようを具体的かつ理論的に整理することをとおして、「違いを楽しむ」ことは重要である。この講義では、情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して知ると同時に、日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信する方法を学ぶ。	人は、自己と他者の違い、自文化と他文化の違いを知ることにより、自分自身と自文化を理解する。異文化接触のありようを具体的かつ理論的に整理することをとおして、「違いを楽しむ」ことは重要である。この講義では、情報コミュニケーション技術を活用して、英語圏の文化を日本語に変換して英語圏の人々に発信することができる。	情報コミュニケーション技術（言語翻訳技術）を活用できる。 英語圏の文化を日本語に変換して知ることができる。 日本の文化を英語に変換して英語圏の人々に発信することができる。 授業科目的貢献度			
						企業が登場してからの大きな歴史（主に15世紀以降）の流れを理解できる。 企業が登場するようになった社会や経済の変化を説明できる。 企業を取り巻く環境は、どのように変化してきのかを歴史の視点から説明できる。 企業は時代と共に、企業の形態や戦略はどのように変化してきたのかを説明できる。 日本の企業の特徴がどのように形成されてきたのかを歴史の視点から説明できる。 授業科目的貢献度			
専門科目群	経営史	2(経営情報コースのみ)	1	企業経営の歴史を振り返り、経営者の経営手法や戦略の変遷を学習する。また、経営手法や経営戦略だけではなく、企業を取り巻く環境の変遷についても触れる。本講義においては、日本の企業経営の歴史を中心に取り上げるが、欧米における企業経営の歴史についても触れ、両者の歴史比較を通じて、日本の企業経営特徴を深く理解できるよう工夫する。	企業経営の歴史を振り返り、経営者の経営手法や戦略の変遷を学習する。また、経営手法や経営戦略だけではなく、企業を取り巻く環境の変遷についても触れる。本講義においては、日本の企業経営の歴史を中心に取り上げるが、欧米における企業経営の歴史についても触れ、両者の歴史比較を通じて、日本の企業経営特徴を深く理解できるよう工夫する。	マーケティング概論			
						マーケティングに関する基本的な用語を理解できる。 マーケティングの必要性を説明できる。 企業経営におけるマーケティングの位置づけや役割を説明できる。 現実に行われているマーケティングの戦略を理解できる。 特定の企業あるいは製品について、自分が有効であると思われるマーケティング活動を考えることができる。 授業科目的貢献度			
	マーケティング概論	2(経営情報コースのみ)				経営における人材の重要性について説明できる。 経営における人事制度や労務管理制度の内容について説明できる。			
						日本と欧米との人材に対する考え方の違いを理解できる。 日本企業の人事制度や労務管理制度に関する近年の変化を説明できる。 今後の経済や社会の動向を踏まえた人事制度や労務管理制度について説明できる。 授業科目的貢献度			
	人材マネジメント	2(経営情報コースのみ)	3	重要な経営資源である労働力を効率的に利用するための基礎理論や制度を学習すると共に、日本における具体的な人事・労務管理制度の内容を学ぶ。その上で、これまで日本の雇用形態の特徴であった終身雇用、年功序列型賃金などが変化する中、今後の経済状況および産業構造の変化を踏まえつつ、今後の労働力の効率的な利用とは何かを企業および社会の視点から考える。	重要な経営資源である労働力を効率的に利用するための基礎理論や制度を学習すると共に、日本における具体的な人事・労務管理制度の内容を学ぶ。その上で、これまで日本の雇用形態の特徴であった終身雇用、年功序列型賃金などが変化する中、今後の経済状況および産業構造の変化を踏まえつつ、今後の労働力の効率的な利用とは何かを企業および社会の視点から考える。	授業科目的貢献度			

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
								10				10	30
							10				10	10	30
						10	10				10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	30	10	0	0	30	30	100
								10			10	10	30
							10		10		10	10	30
							10	10			10	10	40
0	0	0	0	0	0	0	30	0	20	20	30		100
								10	10				20
								10	10				20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	30	40	0	0	10	20	100
									10	10			20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	0	20	100
									10	10			20
								10	10				20
0	0	0	0	0	0	0	35	35	0	0	0	30	100
									10	10			20
									20				20
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100
												15	
											15		15
											15		15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15	40
											10	15	
											15	15	30
0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	75	0	100
											10		10
											15		15
											15		15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	100
												15	
												15	
												15	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	0	100

科目群	区分	授業科目	履修区分 (単位)		開講期	学修内容	学修到達目標	
			必修	選択				
専門科目群	展開科目	インターンシップ (学外研修)	2	6	企業におけるインターンシップを行う。	実習先企業の業務を理解できる。		
						実務で発生する問題点と解決策の一例を説明できる。		
						机上の知識と現実の問題との格差を説明できる。		
						将来の進路に対する自分の考え方を述べることができる。		
	卒業研究	セミナー1	2	5		授業科目的貢献度		
						卒業研究の基礎となる理論・学説を理解できる。		
		セミナー2	2	6		卒業研究の研究方法を理解できる。		
						授業科目的貢献度		
		セミナー3	2	7		卒業研究の基礎となる理論・学説をより深く理解できる。		
						卒業研究の研究方法をより深く理解できる。		
		セミナー4	2	8		授業科目的貢献度		
						卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。		
						卒業研究のまとめ方を理解できる。		
						授業科目的貢献度		
						卒業研究の内容について論理的に発表できる。		
						研究成果を根拠を基にわかりやすく表現できる。		
						授業科目的貢献度		
						卒業研究に関連する理論・学説を理解できる。		
						卒業研究のまとめ方を理解できる。		
						卒業論文を作成し、専門的な研究成果を発表できる。		
						授業科目的貢献度		
						卒業研究は、これまでの授業を通して知り得た総合情報学科の各研究分野の中から、最も興味のある分野を選択し、教員の指導を受けながら研究論文を作成する。		

学科(専攻)の学位授与の方針													
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	合計
							20						20
							20						20
							20						20
							20	20					40
0	0	0	0	0	0	0	80	20	0	0	0	0	100
							20					20	10
							20					20	10
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							20					20	10
							20					20	10
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							20					20	10
							20					20	10
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							20					20	10
							20					20	10
0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	20	100
							10	10				20	10
							10	10				20	10
0	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	40	20	100
							10					10	10
							10					10	10
0	0	0	0	0	0	0	30	10	0	0	30	30	100

■ 総合情報学科

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分		授業科目	単位数		毎週授業時間数						備考	
					1年次		2年次		3年次			
			必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	
人間科学科目群	A グループ	ファースト・イヤー・セミナー	1		1	2	[2]					
		基礎英語セミナー				2	[2]					
		資格英語1	1			2	[2]					
		資格英語2	1			2	[2]					
		英語スキル1	1			2	[2]					
		英語スキル2	1			2	[2]					
		英語スキル3	1			2	[2]					
		英語スキル4	1			2	[2]					
		実践英語1		1	1	2						
		実践英語2		1	1	2				2		
	B グループ	中国語入門1										
		中国語入門2										
		健康科学演習A	1			2						
		健康科学演習B	1			2						
		日本文学A			2			2	2	2	2	
		日本文学B			2			2	2	2	2	
		外国文学A			2		2	2	2	2	2	
		外国文学B			2		2	2	2	2	2	
		哲学A			2		2	2	2	2	2	
		哲学B			2		2	2	2	2	2	
	C グループ	文化人類学A			2			2	2	2	2	
		文化人類学B			2			2	2	2	2	
		歴史学A			2		2	2	2	2	2	
		歴史学B			2		2	2	2	2	2	
		心理学A			2		2	2	2	2	2	
		心理学B			2		2	2	2	2	2	
		教育原理			2							
		教育心理学			2							
		政治学A			2		2	2	2	2	2	
		政治学B			2		2	2	2	2	2	
	D グループ	経済学A			2		2	2	2	2	2	
		経済学B			2		2	2	2	2	2	
		法学A			2		2	2	2	2	2	
		法学B			2		2	2	2	2	2	
		社会学A			2		2	2	2	2	2	
		社会学B			2		2	2	2	2	2	
		社会調査の方法A			2		2	2	2	2	2	
		社会調査の方法B			2		2	2	2	2	2	
		現代社会論A			2		2	2	2	2	2	
		現代社会論B			2		2	2	2	2	2	
	E グループ	教育社会学			2							
		健康科学A			2		2	2	2	2	2	
		健康科学B			2		2	2	2	2	2	
		認知科学A			2		2	2	2	2	2	
		認知科学B			2		2	2	2	2	2	
		環境科学A			2		2	2	2	2	2	
		環境科学B			2		2	2	2	2	2	
		自然科学概論A			2		2	2	2	2	2	
		自然科学概論B			2		2	2	2	2	2	
		生物学A			2		2	2	2	2	2	
		生物学B			2		2	2	2	2	2	
	F グループ	地球科学A			2		2	2	2	2	2	
		地球科学B			2		2	2	2	2	2	

(次ページにつづく)

開講科目一覧<人間科学科目群>

区分			授業科目	単位数		毎週授業時間数								備考
						1年次		2年次		3年次		4年次		
必修	選択	自由		1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期			
人間科学科目群	Bグループ	学問アヘブのロードマップ的複眼的	リベラルアーツ特別講義 リベラルアーツ実践演習A リベラルアーツ実践演習B 教養総合講座A 教養総合講座B	2 2 2 2 2	◎ 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2							集中
合計				9 102	90 [8]	3 32	28 [8]	44 [4]	42 [2]	42 [2]	42 [2]			

(注) 1. 毎週授業時間数の[]は、再履修者向けに開講することを示す。

開講科目一覧<専門基礎科目群および専門科目群>

区分	授業科目	単位数				毎週授業時間数								備考	
		経営 情報コース		スポーツ 情報コース		1年次		2年次		3年次		4年次			
		必修	選択	自由	必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期
専門基礎科目群	総合情報入門セミナ	1			1			2	2						
	コミュニケーションスキル1	2			2			2	2						
	コミュニケーションスキル2	2			2			2	2						
	情報処理演習1	2			2			2	2						
	データベース基礎		2		2										
	プログラミング演習1	2			2										
	情報統計学1	2			2			2	2						
	経営学概論	2			2			2	2						
	経済学入門	2			2			2	2						
	入門簿記	2			2			2	2						
	簿記原理		2												
	会計学		2												
	経営実践入門	2			2			2	2						
	経営実践1	2			2			2	2						
	スポーツ情報実践1		2		2										
専門科目群	経営実践2	2			2										
	スポーツ情報実践2		2		2										
	現代物理学1			2			2								
	現代物理学2			2			2								
	小計		23	6	4	17	6	4							
			29			23			12	8	10	4			
			33			27									
専門科目群	キャリア開発1	1			1			2							
	キャリア開発2	1			1			2							
	キャリア開発3	1			1			2							
	経営情報プロジェクト演習1	2			2			2							
	スポーツ情報プロジェクト演習1		2		2			2							
	経営情報プロジェクト演習2	2			2			2							
	スポーツ情報プロジェクト演習2		2		2			2							
	経営情報プロジェクト演習3	2			2			2							
	スポーツ情報プロジェクト演習3		2		2			2							
	情報概論														
	異文化コミュニケーション1	2			2			2							
	異文化コミュニケーション2	2			2			2							
	経営史	2			2			2							
	マーケティング概論	2			2			2							
	人材マネジメント	2			2			2							
	民法	2			2			2							
	会社法	2			2			2							
	交通論	2			2			2							
	企業経営戦略論	2			2			2							
	工業簿記	2			2			2							
	原価計算	2			2			2							
	データサイエンス概論	2			2			2							
	情報処理演習2	2			2			2							
	情報統計学2	2			2			2							
	プログラミング演習2		2		2			2							
	コーチング論														
	トレーニング論														
	スポーツ心理学														
	スポーツライフと社会														
	スポーツライフと栄養														
	スポーツライフと健康														
	スポーツ情報科学概論														
	スポーツライフのデータサイエンス														
	スポーツ測定評価法														
	ヘルスケアとスポーツライフ														
	スポーツコンディショニング														
	スポーツコンディショニング演習														

(次ページにつづく)

開講科目一覧<専門基礎科目群および専門科目群>

区分	授業科目	単位数				毎週授業時間数						備考					
		経営 情報コース		スポーツ 情報コース		1年次		2年次		3年次							
		必修	選択	自由	必修	選択	自由	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期		
専門科目群	展開科目	データサイエンス演習1	2		2						2						
		データサイエンス演習2	2		2						2						
		キャリア開発4	1		1						2						
		プレゼンテーションスキル			2						2						
		経営情報論	2		2						2						
		管理会計論	2		2						2						
		経営実践3	2		2						2						
		スポーツ情報実践3			2						2						
		経営分析	2		2						2						
		ベンチャービジネス論	2		2						2						
		インターネットビジネス	2		2						2						
		物流論	2		2						2						
		中小企業論	2		2						2						
		国際経営論	2		2						2						
		金融と財務	2		2						2						
		労働法	2		2						2						
		知的財産権	2		2						2						
		環境経営論	2		2						2						
		スポーツと安全			2						2						
		スポーツマネジメント			2						2						
		海外事情A	2		2						◎				集中		
		海外事情B	2		2						◎				集中		
		インターンシップ(学外研修)	2		2						◎				集中		
卒業研究		セミナ1	2		2						2						
		セミナ2	2		2						2						
		セミナ3	2		2						2						
		セミナ4	2		2						◎						
		卒業研究	6		6						◎						
合計		27	63		35	61		10	18	22	24	24	16	6	2		
		90			96												
		50	69	4	52	67	4	22	26	32	28	24	16	6	2		
			123			123											

(注) 1. 「卒業研究」の単位認定は、8期とする。

本学を卒業するために必要な単位数は124 単位とし、各学部学科の定める卒業要件は、別に定める。

4年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に対し学長は卒業を認定する。

卒業研究履修・卒業基準

学科共通

【卒業研究履修基準】

卒業研究を履修できる条件は次のとおりです。

学年	必要な単位数(注1)	必要な科目(注2)	
21生	卒業要件として認められる単位のうち、100単位以上修得すること。	総合情報入門セミナー	基礎英語セミナー

注1) 人間科学科目群の科目については、必修科目と選択科目を合計して27単位を超えることができません。

注2) 基礎英語セミナーの科目については、卒業研究履修基準の必要単位数(100単位)には含みませんが、合格していることが必要です。

<不合格者>4年次生に進級しますが、卒業研究は履修できません。

【卒業要件】

卒業に必要な要件は次のとおりです。

学年	学科・専攻又はコース	科目群	必要単位数
21生	総合情報学科 各コース	人間科学科目群	以下の要件を全て満たすこと (1)必修科目 9 単位を含め 27 単位 (2)人間・歴史文化・こころの理解から 2 単位以上 (3)国際情勢と社会のしくみから 2 単位以上 (4)科学的なものの見方と環境問題から 2 単位以上
	総合情報学科 経営情報コース	専門基礎科目群	必修科目 23 単位
		専門科目群	必修科目 27 単位
	総合情報学科 スポーツ情報コース	専門基礎科目群 専門科目群	必修科目 17 単位 必修科目 35 単位

<不合格者>次年度の前期で卒業資格を充足すれば前期末で卒業となります。

他学部・他学科および学科内他専攻履修

学科共通

【他学部・他学科履修】

工学部の各学科、情報システム学科及び情報デザイン学科の専門基礎科目群および専門科目群の単位を修得した場合、修得した単位は、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。

【学科内他コース履修】

開講科目一覧表における、自コースに開講していない他コース科目の単位を修得した場合、6単位を上限とし、「卒業に必要な単位数」に算入することができる。